

野幌森林公園植物目録の補遺について

村野紀雄

ハンノキ林ではホザキシモツケ、ノリウツギ、クロミノウグイスカグラ、ズミ、エゾノウワミズザクラ(実)、ケヤマウコギ、ヤマグワ、カンボク(花)、マユミ(花)、クマヤナギ(実、筆者初見、珍しい)などの低木と、(キタ)ヨシ、ハンゴンソウ、オニシモツケ、オオハセンキョウ、ヒオウギアヤメ(花)、キジカクシ(花)、ミズドクサ、クサンテツ、コウヤワラビなど、丈の高い高茎草本を多く観ることができた。これらは全体的には北海道の低層湿原に一般的な種類構成である。

でも、かつての古い道路や土砂流入などの攪乱によって乾燥化しており、ヘラバヒメジョオン、シロツメクサ、オオアワガエリなどの帰化植物や、本来砂丘上にあるハマエンドウ、オトコヨモギなどの植物、分布限界付近のシバ、道東や樽前山麓では低地にも生育する高山植物、ウラジロタデなどが混生している処も少なくなかった。

何故か湿原行では上からも水が落ちてくる雨男であるが、多くの参加者がビジョビジョ(美女)やグジョグジョ(愚女)になりながらこの湿原を熱心に観ていたのが非常に感動的であった?!
では62年度まで。



野幌の植物目録としては1973年の館脇・五十嵐尚先生による総括的な目録がある。

これには、1928年の上藤祐舜先生の目録も整理し、自生種 502種、帰化植物32種の計 534種があげられている。

それから10余年、公園内外の環境の変化に伴って当然、フロラの変化も進んでいる筈だ。

そこで、1973年の目録にあげられているもの以外の種類について筆者が確認したものだけでもあげてみると次の32種となった。

1 ヒメザゼンソウ	17 [*] ギンセンカ
2 ミズアオイ	18 [*] アリノトウグサ
3 オオバタケシマラン	19 [*] ノランジン
4 [*] ニワゼキショウ	20 [*] ベニバナイチヤクソウ
5 クモキリソウ	21 [*] イヌトウバナ
6 [*] ヤマゴボウ	22 [*] メナモミ
7 アズマイチゲ	23 [*] セイタカアワダチソウ
8 [*] ククザキイチゲ	24 [*] ブタナ
9 [*] セリバオウレン	25 [*] コウリンタンポポ
10 [*] オランダガラシ	26 [*] トゲチシャ
11 [*] ハルザキヤマガラシ	27 [*] キヌガサギク
12 [*] キレハイヌガラシ	28 [*] オオハンゴウソウ
13 [*] ムラサキウマゴヤシ	29 [*] ハナガサギク
14 [*] コメツブウマゴヤシ	30 [*] ユウゼンギク
15 [*] イタチハギ	31 [*] オオノアザミ
16 [*] シナガワハギ	32 [*] ククニガナ

※：帰化植物。

これを合わせると、現在のところ野幌の植物は自生 512、帰化54の計 566種となる。

これには外来樹木(植栽)85種は入っていないが、これも含めると 651種となる。

なんといっても帰化植物の増加ぶりがめだつが一方で自生種の新しい確認があるのはたいへんうれしいこと。

今後、昔の確認種の再確認を含め、みんなでどんどん新しい目録をつくりあげていきましょう。